

雑草化する帰化植物(Ⅲ)

－ 離 弁 花 －

全国農村教育協会 桑原義晴・広田伸七・村尾宵二・天野斗史子

1996年10月4日、京都市で植物化学調節学会の講演会が開かれた折、昼休み時間に加茂川畔を2km程散策した。平日だったが岸辺には釣糸を垂れる人があちこちに見られる。古都京都を流れる川だけあって水は澄み汚染されていない。土手に降りてみた。秋の陽光を浴びて土手で昼寝を楽しんでいた1m以上もある縞ヘビの眠りを覚ましてしまった。ヘビは悠々と岸辺の草むらに姿を消した。大都会の真ん中でもこんな自然が残っているのかと妙なことで感心した。ヘビの逃げ込んだ草むらはソバの花が満開。上流の山地の畑からこぼれ種が流れついて芽ばえたものかと思ったが、これがとんだ見間違い。茎も葉もソバより遥かに大きく壮大である。近寄って見ると帰化植物のシャクチリソバ。東京では小石川植物園のあき地に大群落をつくっているのを見たことはあるが、関東の川岸では見かけたことはない。ところが加茂川では大きな株をつくったシャクチリソバがあちこちに花を

咲かせている。商売気をだして附近の雑草を調べて見た。結果は表-1のとおり。ざっと見た結果だが33種の雑草のうち半分以上が帰化雑草だった。“所変われば品変わる”関東では少ないシャクチリソバ、アレチヌスビトハギ、アメリカスズメノヒエ、メリケンガヤツリなどがやたらに目につく。特にメリケンガヤツリはいたる所の岸辺に連続して生育していた。1株頂こうと思って引抜こうとしたが、多年草のこの草は株と株とが連結していてしっかりと根を張っていて容易には抜けない。頂くことを諦めた。都会地周辺では、あき地や土手などにはえる雑草のうち6～7割は帰化雑草だといわれているが、今回もそれを実感した。

今号では離弁花の帰化植物14種をとりあげた。

なお、本稿は山野草・樹木生態図鑑(全国農村教育協会発行)よりの転載である。図鑑ではカラー写真と図を併用して解説してあるので、詳しくは上記の図鑑を参照されたい。

表-1 京都市加茂川畔で目にとまった雑草

在 来 雑 草		帰 化 雑 草	
1. メヒシバ	2. オヒシバ	1. シャクチリソバ	2. オオニシキソウ
3. オオイヌタデ	4. イヌタデ	3. ヘラオオバコ	4. マメグンバイナズナ
5. カタバミ	6. ミチヤナギ	5. シロツメクサ	6. アレチヌスビトハギ
7. ヨモギ	8. オナモミ	7. ホソアオゲイトウ	8. クワモドキ
9. センダングサ	10. ギシギシ	9. アレチノギク	10. セイタカアワダチソウ
11. エノキグサ	12. エノコログサ	11. チチコグサモドキ	12. ハルジョオン
13. ヨシ	14. コゴメガヤツリ	13. ヒメムカシヨモギ	14. アメリカスズメノヒエ
15. セリ	16. オオバコ	15. セイパンモロコシ	16. メリケンガヤツリ
		17. オシロイバナ	

コゴメミズ〔イラクサ科〕*Pilea microphylla* Liebm.

1～2年草。生育期間はほぼ1年中。

南アメリカ原産の帰化植物。沖縄や鹿児島の一部に見られる。全体が軟弱で日当たりのよい人家近くの石垣やブロック塀などの下の方に生育する。茎は多肉質で円形または方形、緑色か黄緑色で無毛。下部で分枝して株になり、高さ5～20cmになる。葉は2例配列で大小2葉がある。大葉はやや倒卵状楕円形～倒卵状広皮針形、長さ約5mm、全縁で基部は楔形。小葉は広卵形で節部に束生し、全縁、長さは大葉の約半分。両葉とも肉質で光沢がある。花は通年見られるが最盛期は4～8月。雌雄異株または同株。花は葉腋に数個束生し、花冠は黄緑色～帯紅緑色。

〔生活型〕 Th R₅ D₄ b

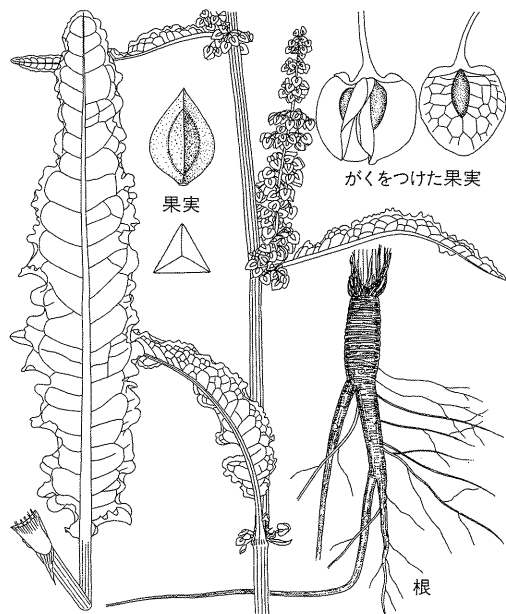


ナガバギンギン〔タデ科〕*Rumex crispus* L.

夏緑性多年草。成長期間4～10月。

ヨーロッパ、アジア及びアフリカ原産の帰化植物。北海道には特に多いが、最近では本州の各地でも見られるようになった。路傍、畑地やその周辺、水田のあぜなどに生育する。根は黒褐色で太く、根の基部の短縮した茎の部分が分けつして新しい個体となる。茎は普通緑色で数個叢生し、高さ60～120cm。葉は線状長楕円形で無毛。長さ15～30cm、幅2～5cmで縁に著しい波状のしわがある。6月に枝先や葉腋に穂状花序を出す。花序は通常緑色。果実は卵形で鋭い3稜がある。全体がギンギンに似るが、花序がギンギンよりやや間のびした感じである。

〔生活型〕 H R₅ D₄ ps

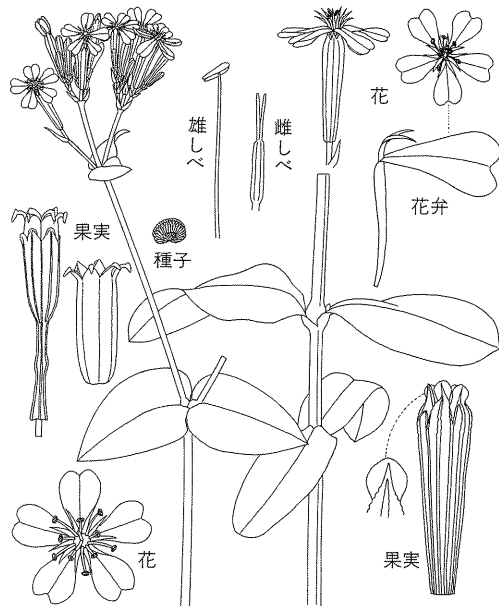


ムシトリナデシコ〔ナデシコ科〕 *Silene armeria* L.

越年草。生育期間 5～9 月。

ヨーロッパ原産で明治初期に園芸用として渡来し、庭園などに植えられたが、逸出し、野生化して、最近では路傍や河原、あき地などに見られ、ときに群生する。全体が緑白色を帯び、平滑、無毛。茎は高さ 30～50 cm。茎や枝の上部の節間に褐色の粘液を分泌する所があり、これに小さな昆虫が付着することからムシトリナデシコといわれる。葉は対生し、長楕円形で基部は茎を抱く、長さ 4～7 cm。6～9 月に茎の先や葉腋に淡紅色の花をつける。園芸種として渡来しただけあって、紅紫色の花をいっせいに咲かせると美しく、よく目立つ。

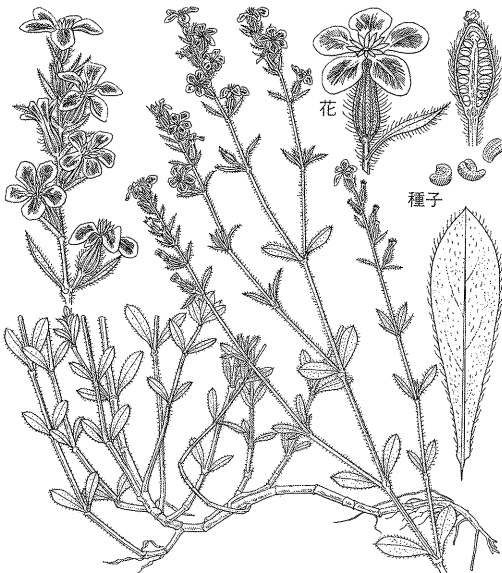
〔生活型〕 Th(w) R₅ D₄ e

マンテマ〔ナデシコ科〕 *Silene gallica* L. var. *quinquevulnera* Rohrb.

越年草。生育期間 10～7 月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。1840 年代（江戸時代）に渡来し、庭園などに植えられたといわれる。現在では本州、四国、九州で見られ、海岸や海岸に近い場所、河原などに生育する。茎は根もとで分枝して基部は横にはい、上部は斜上または直立して高さ 20～50 cm。円柱状で節が高く、白い毛が密生しざらざらしていて茎の上部では腺毛が混じる。葉は対生、無柄でへら形～倒皮針形、葉にも白い毛が密生しビロード状。4～5 月に茎先に穂状に花をつける。花は径約 8 mm。がくは円筒状で先は 5 裂し、花弁の中央部が紅紫色で縁が白色で美しい。

〔生活型〕 Th(w) R₅ D₄ b

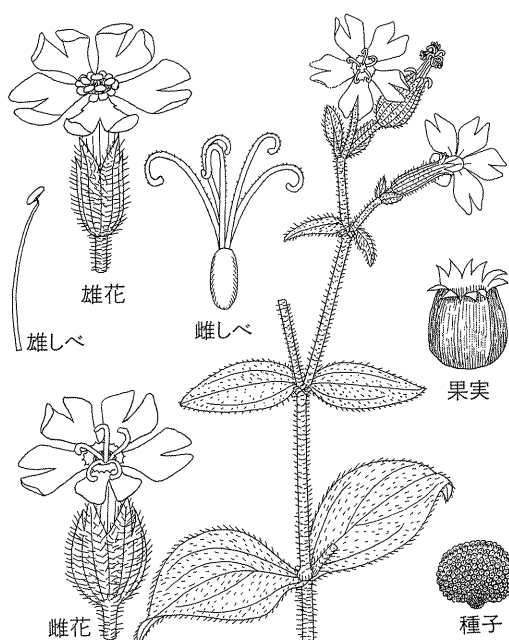


ヒロハノマンテマ〔ナデシコ科〕 *Silene alba* E, H, L, Krause

越年草または多年草。成長期間 5～11月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。別名マツヨイセンノウといい、園芸植物として渡来したものが逸出して野生化し、路傍や牧草地などに生育し特に北海道で多く見られる。茎は根もとで分枝して株になり高さ 40～80 cm, 白い短毛が密生する。節は球状にふくらむ。葉は対生し無柄, 広皮針形で長さ 3～9 cm。両面と縁に短い白色の軟毛が密生する。雌雄異株。7～9月に雌花, 雄花ともに茎先に白色の花をつける。花は長さ約 2 cm, 径約 2～3 cm, がく筒には細毛があり, 雌花のがく筒は太く, 雄花のがく筒は細い。花は夕方咲き香気を放つ。

〔生活型〕 Th(w) H R₅ D₄ e

ウラジロアカザ〔アカザ科〕 *Chenopodium glaucum* L.

1年草。生育期間 4～11月。

ユーラシア, アジア大陸原産の帰化植物。北海道～九州に分布し, 日本では海岸の砂地, 埋立地, 海岸近くの畑地や路傍に見られるが, 中国大陸では内陸部の畑地や水田畦畔の雑草となっている。茎は根もとで分枝して株になり, 四方にはって上部が斜上して高さ 15～30 cm, 平滑, 無毛, 縦の条があり, 淡褐色か紅色を帯びる。葉は互生, 柄があり, 卵状長楕円形～広皮針形で長さ 2～4 cm, 質は厚く, 波状の歯牙があり両面無毛, 裏面は白粉粒が密布して白っぽい。7～10月に茎先や葉腋に短い穂状の花穂をつける。花はやや密につく。

〔生活型〕 Th R₅ D₄ e, b

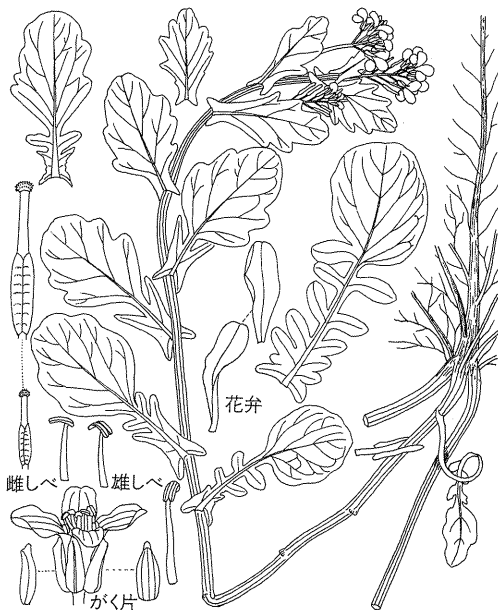


ハルザキヤマガラシ (セイヨウヤマガラシ)〔アブラナ科〕*Barbarea vulgaris* R. Br.

夏緑性多年草。成長期間 4～9 月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。低地の草地や荒地、畦畔、路傍などに見られ、しばしば群生する。全体が平滑で無毛。茎は根もとで分枝して株になり数本叢生し高さ 30～60 cm。根生葉は長い葉柄があり羽状複葉で花期には枯れる。茎の下部の葉は羽状に分裂し、長さ 6～10 cm、頂小葉は大きく、側小葉は 1～4 対。葉柄の基部は耳状になって茎を抱く。葉の表面は濃緑色で光沢がある。5～6 月に茎先に多数の花序を出し多数の黄色の花を咲かせる。花序の長さ 10～15 cm。花をいっせいに咲かせる様子は菜種に似ている。

〔生活型〕 H R₅ D₃ ps

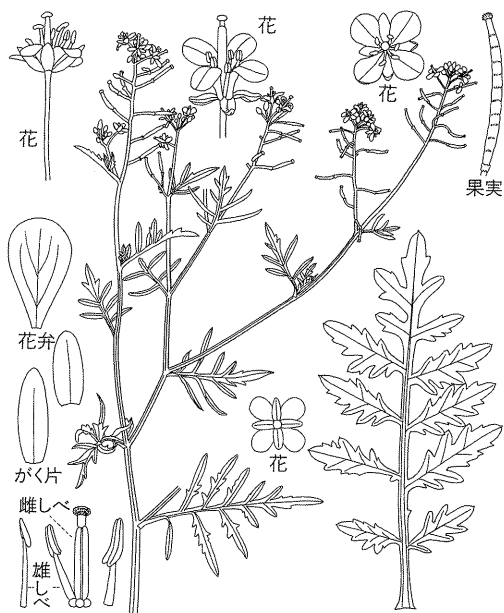


キレハイヌガラシ (ヤチガラシ)〔アブラナ科〕*Rorippa sylvestris* Besser

夏緑性多年草。成長期間 4～11 月。

ヨーロッパ及びアジア大陸原産の帰化植物、特に北海道で多く見られる。畑地や路傍、あき地、畦畔などに生育する。繁殖力が強く、根茎が地中を横走してその先から芽を出して繁殖する。この根茎は切断されても発芽するので一度畑地に入ると防除がかなり困難となる。茎は高さ 30～60 cm、平滑、無毛で少数の鈍い稜がある。根出葉は多数出て羽状に深く裂け、各裂片はさらに浅く裂ける。茎の葉は互生し羽状に分裂する。葉面は無毛。6～8 月に茎先が多数に分枝して先に長さ 3～5 cm の散房状花序をつける。花は径 5～6 mm、鮮黄色で多数つく。

〔生活型〕 H R₅ D₄ ps

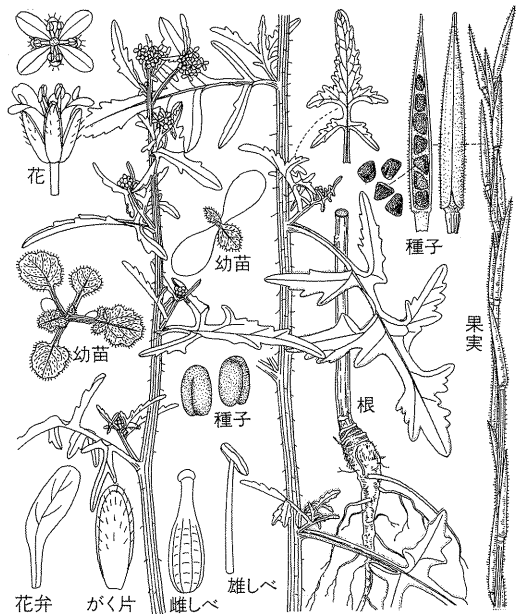


カキネガラシ〔アブラナ科〕 *Sisymbrium officinale* Scop.

越年草。生育期間10～8月。

ヨーロッパ原産の帰化植物。北海道，本州，九州の各地に見られ，路傍，あき地，樹園地などに生育する。茎は根もとで分枝して数本叢生し株になる。緑色または紫色を帯び，下向きの毛があり高さ50～80 cm。根生葉は多数出て羽状に分裂し，花期には枯れる。茎生葉も羽状に不規則に分裂し両面に短い毛がある。長さ3～15 cm，葉柄基部は茎を抱かない。5～9月に多数の枝を出し，多数の黄色の花を総状につける。花後に花序はやや水平に横に広がり，細く長く伸び，果実が枝に圧着する特長がある。果実は線状皮針形で長さ1～1.3 cm。

〔生活型〕 Th(w) R₅ D₄ ps

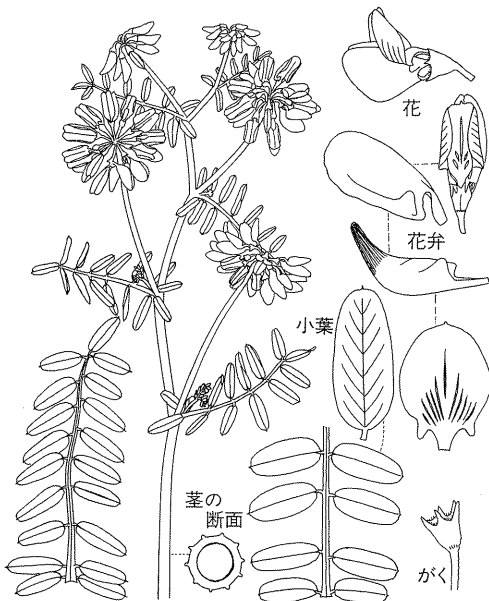


タマザキクサフジ〔マメ科〕 *Coronilla varia* L.

夏緑性多年草。成長期間4～10月。

ヨーロッパ原産の帰化植物で，路傍や土手，あき地などに多く見られ，しばしば小群落をつくっている。茎は叢生して大きな株になり，長さ70～120 cm，中空，無毛で10～12条の筋があり，基部は赤褐色を帯び，よく分枝して茎下部の枝は長さ30～35 cmにもなる。葉は奇数羽状複葉で長さ10～15 cmで13～25個の小葉があり，小葉は楕円形で無毛，長さ10～25 mm。7～8月に葉腋から花軸を伸ばし，先にレンゲソウに似た淡紅色の頭状花をつける。全体がレンゲソウに似るが，レンゲソウは茎の長さ10～25 cmと短く，小葉も9～11個と少ないので区別できる。

〔生活型〕 H R₅ D_{3,4} b

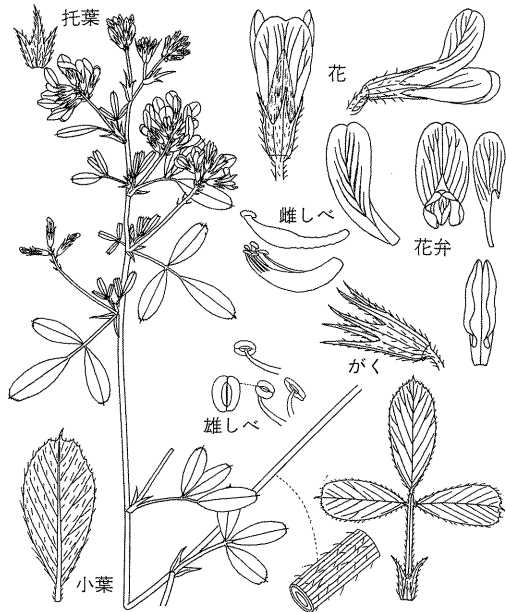


ムラサキウマゴヤシ〔マメ科〕*Medicago sativa* L.

夏緑性多年草。成長期間4～10月。

地中海沿岸原産の良質の牧草である。牧草地などで栽培されているが、逸出して野生化し、路傍やあき地、樹園地などで雑草化しているのを見かける。茎は中空でまばらに毛がある。基部は多少倒伏し、枝を多数出して長さ1～1.8 mになる。葉は3個の小葉からなる3出複葉、小葉は狭倒卵形で長さ2～3 cm、幅6～10 mm、上半分に浅い鋸歯があり、表面はほとんど無毛で裏面に伏した長い毛が密生する。7～9月に枝先や葉腋に淡紫色の花を総状につける。アルファルファ、またはルーサンと呼ばれ、明治初期に牧草として輸入された。

〔生活型〕 H R₅ D_{3, 4} b

ウマゴヤシ〔マメ科〕*Medicago polymorpha* L.

越年草。生育期間11～8月。

ヨーロッパ原産で古くから良質の牧草として栽培されているが、逸出して野生化し、現在では雑草となっている。海岸や海に近いあき地、路傍、樹園地などに多く見られ、しばしば群生している。茎は根もとで分かれ、地上をはって四方に広がる。葉は3小葉からなる複葉で、小葉は倒卵状楔形、先端はわずかに凹み、上部に細かい鋸歯がある。全体はほとんど無毛。4～5月に葉腋から花柄を伸ばし、先に黄色の花をつける。果実はらせん状に巻き、縁には先の曲った刺がたくさんついていて、これで衣服などによく付着する。

〔生活型〕 Th(w) R₅ D₂ b

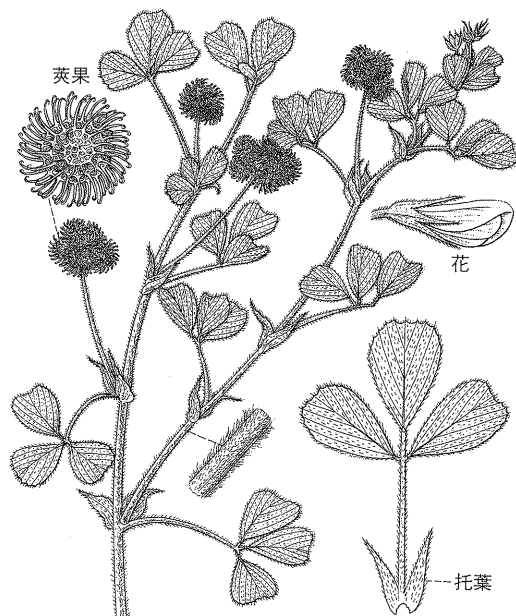


コウマゴヤシ〔マメ科〕*Medicago minima* Bartal.

1年草または越年草。生育期間11～8月。

ヨーロッパ原産で、牧草として明治初期に渡来した。現在では野生化して各地で見られる。海岸に近い路傍、あき地、樹園地などに多く生育する。茎は基部で分枝して横にはったり、斜上して高さ30 cm内外。全体に軟毛が多い。葉は3小葉からなる複葉で小葉は倒卵状楔形、長さ約1 cm。先はやや凹み、上部に細かい鋸歯がある。3～6月に葉腋に黄色の花をつける。果実はらせん状で刺がある。ウマゴヤシと似るがウマゴヤシは全体やや無毛で托葉の縁が細裂するが、コウマゴヤシは全体に軟毛が多く、托葉は鋸歯があるが細裂しない点で区別できる。

〔生活型〕 Th R₅ D₂ b



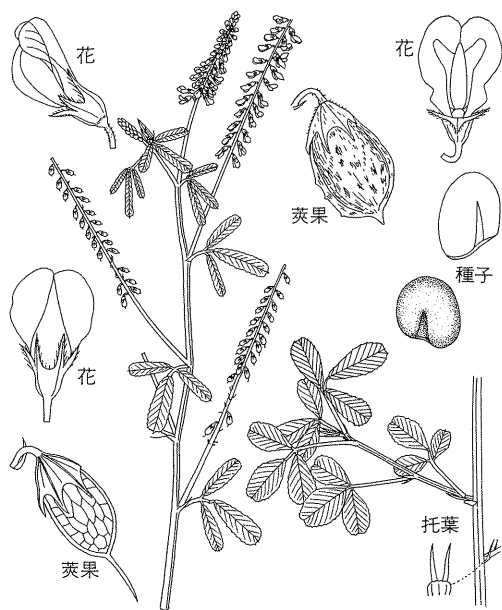
シロバナシナガワハギ〔マメ科〕*Melilotus officinalis* Pallas

subsp. *alba* Desv. ex Lam.

越年草。生育期間10～8月。

中央アジア原産の帰化植物。全国で見られ、路傍やあき地などに多く生育する。茎は平滑、無毛で高さ60～120 cm。葉は3小葉からなる複葉、小葉は倒皮針形～倒狭卵形で長さ1.5～3.5 cm、先はやや凹み、表面無毛で裏面に伏毛があり、上半分に浅い鋸歯がある。7～9月に茎先や葉腋に長さ3～7 cmの総状花序を出し、多数の白色の花を下向きにつける。花は長さ3.5～4 mm。類似種にシナガワハギ(29巻1号に掲載)があり、こちらは東南アジア原産。全体はシロバナシナガワハギとほぼ同じだが、花が黄色なので区別できる。

〔生活型〕 Th(w) R₅ D₄ e



オオマツヨイグサ〔アカバナ科〕 *Oenothera erythrosepala* Borbas

越年草。生育期間10～8月。

北アメリカ原産の帰化植物で、鉄道沿線や高速道路の土手、川原や海岸の砂地などに多く見られる。茎は直立し高さ0.8～1.5m、あらい毛がある。茎の葉は互生し、長楕円形で短い葉柄があって縁にあらい鋸歯がある。6～8月に枝先に径6～7cmの大きな黄色い花が連なって咲く。花弁は4枚で先が凹み、花の下には緑色の包葉がある。花は夕方から開いて翌朝にはしぼむ。このためにツキミソウ（月見草）の別名がある。都会地周辺の路傍やあき地には、これより花がずっと小形のメマツヨイグサが多く生育している。こちらも北米原産の帰化植物である。

〔生活型〕 Th(w) R₅ D₄ Pr



アグレボ (AgrEvo) は、"Agriculture (農業)" と "Evolution (進化・発展)" が結びついてできた名前です。

作物にやさしく、
スギナも枯らす。



●作物にやさしいバスタ

バスタは作物体の他の部分に移行して影響が出たり、後にまで影響することはほとんどありません。

※バスタは非選択性ですので、作物の莖葉に飛散するとかかった場所に薬害を生じますので注意してください。

●なんでも枯らすバスタ

バスタはほとんどすべての雑草に効果できめん。スギナ、ツユクサなどの問題雑草にも優れた効果を発揮します。

●速く効く、長く効くバスタ

バスタは速く効いて、しかも長く効く。<速く><長く>という両方で満足できます。

●使いやすいバスタ

バスタは普通物、魚毒性はA類相当（原体）です。また、土壌微生物によりすばやく分解されるので、土や環境に影響の少ない除草剤です。

®:ドイトン・ヘキスト社の登録商標

バスタ普及会 日本農薬株/日産化学工業株 〈事務局〉ヘキスト・シェーリング・アグレボ株 〒107 東京都港区赤坂4-10-33